

0-3

コロナ禍の影響下で臨床検査センターが取り組んだこと

○屋代 いづみ¹⁾、堀内 裕次¹⁾、新保 敬¹⁾、
池田 真由美¹⁾、田中 光昭¹⁾、
小飼 貴彦²⁾、菱沼 昭²⁾

- 1) 獨協医科大学病院臨床検査センター
- 2) 獨協医科大学 感染制御・臨床検査医学

臨床検査センターでは、2020年3月頃から感染拡大したコロナ禍の影響により検体検査における大規模な分析装置と関連システムの更新計画、臨床検査室の国際標準規格であるISO 15189認定継続と新規申請となる病理検査の対応など、重要な計画が停滞することになった。また、病院内の安全対策として要望されたSARS-CoV-2関連PCR検査の大量処理と適時結果報告を行う運用構築や外来採血・採尿利用者の混雑緩和対策対応が短期間に集中したため、すべてを達成することが困難な状況であった。

ここでは、病院の協力を得ながら職員が臨機応変に対処し、概ね達成した内容の中からISOの取り組みを中心に報告する。

0-4

エックス線撮影室における混雑緩和に向けた取り組み

～「撮影開始時刻変更」の効果～

○近藤 綾香、木村 友昭、鈴木 一史、
橋本 富寿、浅野 浩一、小黒 清

獨協医科大学病院放射線部

COVID-19が流行している状況の中、獨協医科大学病院エックス線撮影室の中待合室において患者が椅子に座り切れないほど混雑していることが問題となっていた。そこで今回、エックス線撮影室中待合室の混雑を緩和することを目的とし、時差勤務を利用しエックス線撮影の一部検査室において検査開始時刻を20分間早める取り組みを行った。その結果、超過勤務時間を増加することなく従来の検査開始時刻における待合室の混雑を約70%低減することができた。この取り組みにより、中待合室の混雑が緩和し、また、外来診療開始時に撮影画像を提供できるようになり、感染対策と共に患者サービスが向上するという成果が得られた。